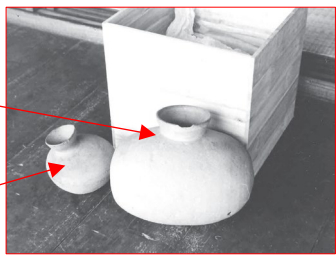
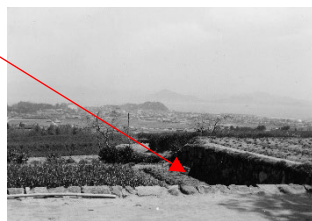


田所屋敷と田所古墳と三宅古墳 (五日市町史上巻 131 頁～141 頁) 広島市佐伯区三宅町 (旧佐伯郡三宅村)

田所古墳(三宅田所古墳)出土品(非公開)
 大井氏所蔵の須恵器(大井氏の畑より昭和五年発掘)。横田植昭名誉教授の鑑定によると、田所古墳の出土品。七世紀後半の須恵器の横瓶と、左が須恵器の平瓶。『五日市町史』上巻古墳文化と田所屋敷
 一、古墳とその遺物
 三宅田所古墳 一三八頁、一三九頁によると、三宅の宮島ゴルフ場(宮島カンツリー倶楽部五日市コース)を造成したときに、大井邸より西に五〇㌔の地点から古墳が見つかり、鉄鍬等が多く発見されたという。



田所古墳(三宅田所古墳)(昭和五年大井氏居宅前畑の角下より七世紀後半で古墳時代の須恵器が発掘された)非公開 この写真は昭和三七七年頃撮影されたもの。



前方の電柱付近の畑から田所古墳の須恵器が出土(非公開)大井氏の説明。大井家の畑田所恒之輔が撮影



右の写真は田所古墳周辺の出土品(非公開)写真は昭和三七七年頃の大井氏居宅前の畑より発掘。大井氏所蔵



右の写真は、右から佐々木晋氏、中村宗平氏、児玉静人氏、児玉氏宅にて。三氏の皆様の御協力で、これらの資料が出来た。又田所恒之輔の叔父、佐々木晋氏の記録された写真と裏書きにより、昭和三七七年頃の宮島カンツリー倶楽部五日市コース、田所古墳、田所古墳の記録が残された。佐々木晋氏撮影
 これらの資料を田所恒之輔が編集した。



右の写真は昭和三七七年頃、田所屋敷跡(宮島カンツリー倶楽部五日市コースの一部)五日市町史上巻古墳文化と田所屋敷一四三頁によると田所屋敷
 田所は田荘とも書き大化の改新以前の大和の豪族もしくは豪族の地方における土地の所有形態で、天皇・皇族の所有地が屯倉といったのに対し、豪族の所有地を田荘といった。



右の写真は昭和三七七年頃。宮島カンツリー倶楽部五日市コース前方の林が田所屋敷跡。佐々木晋氏撮影



下の写真は昭和三七七年頃。宮島カンツリー倶楽部五日市コースの石積が田所屋敷跡。佐々木晋氏撮影



雑木林の中が田所屋敷小川が境なり。現在はゴルフ場の為新たな溝が出来ている。

三宅古墳(バイパス工事で三宅古墳が破壊される前の姿)写真は昭和三七七年頃。左が中村宗平氏と右が佐々木晋氏。田所恒之輔の叔父佐々木晋氏撮影
 『五日市町史』上巻古墳文化と田所屋敷三宅古墳一三四頁、一三五頁によると、観音三宅に住む青木信氏の所有田に「ツ火」の伝説があり、一・四㌔の石碑が立っていた。
 昭和四五年八月二十九日この土地がバイパス用地になると予定されたため、この石碑を移転する工事を始めたところ、幅一㌔、長さ二㌔のかき型の組石を発見した。そのかき型の中央付近より高さ二五cmの須恵器の埴が横たわり、さらにそれを中心にして、刀身が三角形にならべられ、付近から鉄鍬や馬の轡の一部などを発見した。須恵器の埴には高杯のこわれた台でじょうずに蓋がしてあった。埴の中には人骨とともに金環一個、銀環二個・水晶の勾玉一個・切子一個・瑪瑙製の首玉二個・ガラス製の小玉一個が出土した。刀は直刀で五〇cmないし八〇cmの二本分で赤く錆び付いていた。馬具は轡の一部鉄製である。この埋蔵は後期古墳である横穴式古墳であったものを、いつの世にか開墾して田地にするため発掘し、破壊したものを人骨・副葬品など再埋葬したものとみられる。
 又再埋葬した当時の物か末時代の中国製の青磁の破片が付近から発見されたことも注目される。



昭和三七七年頃の三宅古墳遠景佐々木晋氏撮影



三宅古墳の土師器(高杯)広島県立埋蔵文化財センター所蔵
 田所恒之輔が撮影



三宅古墳の須恵器の埴 広島県立埋蔵文化財センター所蔵 田所恒之輔が撮影



馬の轡の一部の引手 広島県立埋蔵文化財センター所蔵 田所恒之輔が撮影



三宅古墳の土 広島県立埋蔵文化財センター所蔵 田所恒之輔が撮影



右の上下の写真は三宅古墳の出土品。金環一個・銀環二個・水晶の勾玉一個・切子一個・瑪瑙製の首玉二個・ガラス製の小玉一個。広島県立埋蔵文化財センター所蔵。田所恒之輔が撮影



右の三点の写真は三宅古墳の出土品の鉄刀と鉄鍬等。広島県立埋蔵文化財センター所蔵 田所恒之輔が撮影

